



将来のまちの姿を考える

昨年10月から「御前崎市の良さ」について学習している第一小学校の5年生を対象に1月22日、市役所企画政策課の職員が講師となりシアワセミライカイギを開催しました。

授業では、「10年後の御前崎市がどんなまちになっていてほしいか」をテーマにグループで話し合いました。児童からは「人口が多いまち、自然が豊かなまちがいい」といった意見が上がりました。



全国で最も早い水揚げ 色に輝くカツオ水揚げ

全国で本年初となる生カツオが御前崎漁港に水揚げされました。運び入れたのは、南駿河湾漁協所属の近海カツオ一本釣り漁船「第11福栄丸」(栗本悟漁労長)。1月21日から2日間かけて小笠原諸島の周辺海域で釣り上げたカツオとキハダマグロ約6・5トンずつを載せて入港しました。初競りでのカツオは高値で、1キロ当たり1200円の値が付きました。水揚げはこれから5月にかけて最盛期を迎えます。



周囲の人が気づいてあげよう 認知症の専門医から学ぶ

市が主催で1月19日、池新田公民館で認知症講演会を開催し、約200人が参加しました。

講師は、認知症・神経内科専門医の小野澤里衣子先生で、認知症を発症しても、本人は周囲に隠そうとする傾向があるとして、「家族や周囲の気づきが大切」と話しました。さらに、「認知症予防の10力条」と題し、生きがいづくりや家族団らんの食事、適度な運動を心掛けるよう参加者に呼び掛けました。



今後もさらなる港の活性化を目指す 冷食貨物の定期輸入開始

御前崎港で、リーファー(冷凍・冷蔵)コンテナを用いた食料品の定期輸入が1月17日から始まりました。これは、コンテナに対応した電源供給体制が整ったことで実現。22日には市や県、海運会社の社員ら40人が出席し、記念式典が開かれました。初の輸入品は、世界有数の海運会社「CMA CGM ジャパン」が運び入れた冷凍カツオ3トン。柳澤市長は「インセンティブ制度を検討したい」と話しました。